



# KFC News

Kobe Foreigners Friendship Center NEWS LETTER

2022. 9. 17

No. 170

法人本部 〒653-0038 神戸市長田区若松町 4-4-10 アスタクエスタ北棟 502  
TEL : 078-612-2402 FAX : 078-612-3052 E-mail kfc@social-b.net  
デイサービスセンター ハナの会 TEL / FAX : 078-612-2408  
グループホーム・小規模多機能型居宅介護ハナ TEL : 078-798-5475・4 FAX : 078-798-5476  
ハナ介護サービス TEL : (居宅) 078-646-8671 (訪問) 078-646-8670 FAX : 078-612-3052  
ふたば国際プラザ TEL : 078-747-0280 FAX : 078-747-0290

## 2022 年度「多文化共生」を考える研修会

今年も 8 月 18 日～8 月 25 日の間の 4 日間、「多文化共生」を考える研修会を開催しました。コロナ禍のため、今年で 3 回目のオンラインでの開催になりました。オンラインは申し込まれても当日参加されない方が結構いらっしゃるため、今回は少し工夫をして取り組み、4 日間で約 350 名(関係者含む)の方にご参加いただきました。以下に、内容とご感想を紹介させていただきます。

今回のトップバッターは、映画監督の川和田恵真様でした。監督はイギリスでの映画祭にご参加されていたとのことで、現地時間早朝5時頃にご登壇いただきました。テーマは「『マイスマールランド』で伝えたかった日本の外国人問題」で、聞き手を関西国際大学の山本晃輔先生に務めていただき、映像を交えて、多くのクルド人の取材の中で感じたことや外国ルーツであるご自身の経験をもとにお話いただきました。

映画は、在日クルド人の少女が、在留資格を失ったことをきっかけに自身の居場所に葛藤する姿を描いた作品です。関西ではクルド人の方に出会うことはなかなかありませんが、埼玉周辺には 2000 人のクルド人が住んでいます。今年 8 月にはクルド人男性がやっと初めて難民認定され、今後、他のクルド人の方たちにも拡がるのが期待されています。

参加者からは、「『共生』という言葉に対して、監督の『受け入れる』というのではなくてお互いに相手を知ること、という話にハッとしました。『受け入れる』ということの『上から目線』に気づかされたのが、今日の収穫でした」、「監督の誠実なお人柄がよくわかって、お話が聞けて早く映画が見たくなりました」という感想が

あり、機会があればぜひ多くの方に映画をご覧いただきたいと思います。

2コマ目は、(一社)日本クルド文化協会のワッカス・チョーラク様に、クルド人の歴史から現状までを非常にわかりやすくお話いただきました。当事者からお話を聞くことができる貴重な機会となりました。

2日目は、一橋大学のイ・ヨンスク名誉教授から、「コミュニケーションのための『やさしい日本語』とはなにか」というテーマで、やさしい日本語を作る側の人権的な視点を中心にお話いただきました。

また2コマ目は、文部科学省総合教育政策局国際教育課外国人児童生徒教育専門官の平山大輔様より、「令和 3 年度日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査結果の概要について」を、3 コマ目は、大阪大学大学院人間科学研究科の榎井縁特任教授より「外国人の子どもの就学実態調査結果から見える課題、そして今、取り組むべきこと」というテーマでお話いただきました。

参加者からは、「文科省の予算が少ないように思います。少しずつ改善されているとはいえ、税金をもっと子どもたちのために使ってほしい」、「榎井先生のご講演は、大変重要な視点からなされており、外国につながる生徒を支援する私たちがその土台に立たないと、単なる同化に過ぎず、学校や社会の多様性につながらないと考えます。現在一生懸命に支援している人の中にもそこから抜け出せていない場合もあります。しかし、まずは無理解(外国につながる生徒に出会っていない)な教員や大人がもっと出会っていくような仕組みが必要で、行政

が率先してほしい」というご感想などがありました。

3日目の一コマ目は、「世界を揺るがすウクライナ侵攻 一何がなぜ起きたのか、いかに対応すべきか」というテーマで、東京大学法学部教授の遠藤乾先生よりお話いただきました。

2コマ目は「神戸市のウクライナ避難民受入・支援の状況」の神戸市市長室国際部国際課の出口幸治担当課長よりご報告いただきました。参加者からは、「遠藤先生のお話が時間が足りなかった点が残念だった」「ウクライナ難民受け入れの実態がなかなかニュースでは見えなかったので、大変勉強になりました」というご感想などがありました。

4日目最終日は、大阪市立大学の谷富夫名誉教授より、「生野の在日コリアンと日本人」、NPO 法人クロスベースの宋悟代表理事より、「生野コリアタウンの挑戦～多様な人びとが互いに交差(クロス)する 豊かな土壌(ベース)～」というテーマで、歴史から現在、そしてオープン間近のいくのパーク構想等についてお話いただきました。

参加者からは、「最近『スープとイデオロギー』という映画を見ました。谷先生のお話と関連づけられとても勉強になりました。もっと生野区のことを知りたいと思いました。」「学術的研究発表と現場の最新情報を組み合わせて構成され、大変興味深く拝聴致しました。時代が変わるとそこに住む構成人員も変遷していき、人々の意識も変わっていくので、常に研修し自分の意識もバージョンアップしていくことの重要性を痛感しました」などのご感想をいただきました。

最後に、今回、ご登壇いただきました講師のみなさま

やご参加いただいたみなさまにはこの場を借りてお礼申し上げます。  
(志岐 良子)



ワッカス・チョーラク様にご紹介いただいたクルド人関係の書籍の一部です。クルド人について知りたいと思われた方は一度読んでみてはいかがでしょうか。



◆ ボランティア紹介

「逆境を楽しむ力」(岩出雅之著)の宣伝広告に「利他行動は脳が喜ぶ」と書いてあります。例えばボランティア活動で人の役に立っていると清々しい気持ちになります。

今回は、インターン後もボランティアで活動を続けておられた土山花音さんにインタビューした内容を紹介します。バスケット好きのスポーツウーマン、お菓子作りやかわいいインテリアを集めるのが趣味です。

質問「ボランティアをしようと思ったきっかけは何ですか？」

…最初のインターンの時期は、まだ相手の方が心を開いてもらっていない感じがしました。アプローチの方法を変えたりして、だんだん距離が縮まってきて、明るくなり、「ありがとう」「勉強が楽しい」と言ってくれました。インターン後も活動を続けたいと思いました。

質問「アプローチの方法は具体的にどんなことですか？」

…明るく接するのは基本です。雑談的に質問を投げかけたり自分のことを話したりして関係が築けていきました。毎回褒めていると、自信がついたのか、自分から話し始めてくれるようになりました。イラストのある教材を使いました。一方通行では楽しくないのでアイスブレイクで今日何をするかとか世間話も取り入れました。

質問「ボランティアをして、自分に変化がありましたか？」

…自分にも固定観念があったのかなあと気がつき

ました。柔軟に対応することの大切さを知りました。街で「やさしい日本語」のパンフレットを読んで、なかなか通じないだろうなあ、イラストの方がいいのに、と思ったりしました。以前なら当たり前だったことが当たり前じゃないことに気がつき、改めて見直すようになりました。外国人目線で見られるようになりました。

質問「これからボランティアをしようという人に何かアドバイスがありますか？」

…活動に関わる時は、柔軟な考え方と素直な心が必要だと思います。学習支援はじっくり時間をかけて関わってほしいです。学習方法に正解はなく、毎回振り返って、調べたり、考えたりするのがいいと思います。

どうもありがとうございました。土山さんは大学卒業した後、この夏に海外留学に出発されました。KFCでの経験を活かして、今後益々のご活躍を期待しています。  
(聞き手：奥 優伽子)

タイの「中秋節」

タイの9月は、街中が賑わうお祭り「中秋節」です。「中秋節」は中国の三大節句の一つで、タイでは「ワン・サーチーン」(中国節句)と呼ばれているそうです。8月にタイに帰国していた学習者から、なんとドリアン入りの月餅をお土産でいただきました。恐る恐るいただきましたが、甘すぎず、ドリアンの香りが強くするわけではなく、食べやすい味でした。一緒に頂いたベトナム人の大学生は非常に気に入って、早速ネットで購入できないか、検索していました。



## ◆遠足「太陽公園」

6月29日、日本語クラス水曜日の学習者の発案で、姫路の太陽公園へ遠足に行きました。クラスの活動の中で、遠足に行くならどこが良いかを学習者に提案してもらい、みんなで行先を選びました。時間や集合場所なども、学習者と支援者が一緒になって考えました。

当日9時10分にJR新長田駅南側に集合して、貸し切りバスで出発です。参加者は合計22名、バスの中で自己紹介やなぞなぞをしているうちに現地に着いていました。

太陽公園は世界を旅する気分を味わえる広大なテーマパークで、城のエリアと石のエリアに分かれています。石のエリアは世界の遺跡や石像のレプリカが多数設置されていて、城のエリアは「白鳥城」の中にトリックアートエリア、レストラン、土産物店があります。

2つのグループに分かれて行動したのですが、私のグループはまず石のエリアに入りました。入口すぐの凱旋門をくぐるとモアイ像、世界各地の石像がずらりと並んでいます。地理や時代に関係なく配置されており、ペルーの石像群の中にいきなり自由の女神が出てきたかと思えば、木陰にマーライオンがたたずんでいたりと不思議な空間です。そしてこのエリア一番の見どころは、何と言っても兵馬俑です。中国の学芸員協力のもと作られたという1000体ものレプリカは圧巻のスケールでスマホでは写真に入りきりません。他にも2km続く万里の長城やピラミッドなど見どころ満載です。

城のエリアの「白鳥城」はドイツのノイシュバンシュタイン城そっくりのお城で、映画やドラマの撮影などにも使われたようです。中はトリックアートの部屋がいくつもあり、皆、役者顔負けの演技力でおもしろ写真をたくさん撮っていました。その後、城のエリア内のレストランで合流してランチをいただきました(播州名物あなご丼、あなごの天ぷらが大きい!美味しかったです)。

この日はまだ6月であるにもかかわらず、もう夏を思わせるような暑さでしたが、本当に楽しく過ごせました。石のエリアが1992年、城のエリアが2009年にできたそうですが、私は全く知らなかったのでこの機会がなかったら来ることはなかったでしょう。発案してくれた学習者に感謝です。

バスで帰途につき、ほぼ時間通りに新長田に到着、解散しました。楽しく無事に一日を終えたのは参加者全員の協力があればこそ、そして諸々の手続きを行ってくださった事務所の方々のおかげです。ありがとうございました。(吉井 朋子)

多文化子ども共育センター *MOL*

## ◆新学習支援インターンコーディネーター紹介

神戸大学国際人間科学部環境共生学科 2 年の望月未莉と申します。

大学では、「環境」にまつわる様々な分野の学問を学んでいて、特に地域社会のコミュニティや、街・都市の設計といった生活環境、社会の構造について切り込む社会学などを重点的に学んでいます。また、専門分野だけでなく、芸術などの教養分野にも興味があります。

KFC と関わるようになったのは、今年の6月頃からです。きっかけは、高校時代の友人がもともと KFC に携わっており、大学に入ってからその友人に話を聞いて誘い受けた事です。それまで、全く KFC の事を存じ上げていなかったのですが、もともと日本における在日外国人やその子どもたちへの対応、教育などに興味を持っていたことから、KFC に関わることとなりました。

学習支援と一口に言っても、教える子ども1人1人によって、日本語の習得レベルや、学校の勉強への理解度が異なる為、とても難しいと感じました。教えながら、隣で子どもが勉強している様子を見ながら、現在の状況、抱えている問題などを捉えていき、その子に一番合った形で教える。難しいながらも、関わっていく内に、1人1人に寄り添って支援を行うことの重要性をますます強く感じる事となりました。まだまだ未熟なので、自分自身も子どもたちと一緒に成長していきたいと思えます。

(望月 未莉)

## ◆初めての学習支援と新長田図書館

4月から土曜日の朝に、外国にルーツを持つ子どもの学習支援のお手伝いをさせて頂いています。

今まで、定住外国人子ども奨学金の方で、神戸まつりなどのイベントや、コンサートのお手伝いはさせて頂いていたのですが、学習支援は初めてです。一緒に学習しているのは、ロシア人の5歳の女の子で、ひらがなやカタカナの練習をしたり、カードを使って昆虫や動物、果物の名前を教えたりしています。普段、ひらがなやカタカナを意識して書くことがないので、彼女に「ネ」「シ」「ぬ」などを書くのが難しいと言われた時には、「なんで?」と思いましたが、改めてそれらの字をきれいに書こうとすると、バランスよく書くのが確かに難しい。正しい書き順で、トメ、ハネをきちんと書くのが大事だと思いました。また、昆虫や植物の名前も知っているようで知らないものも多く、自分の方が勉強になっています。

来ている子どもたちは、やる気がある日もあれば、全くない日もあり、また、ケンカして泣くときもあつたり、毎回いろいろですが、どんな二日酔いの日でも、「よし、行こう」と思えるほど楽しいです。

また、支援者の方々は、本当に熱心に根気強く学習者に教えておられて、見習わなければならない事ばかりです。

そして、8月6日の暑い夏の日、子どもたち、お母さん、支援者のみなで新長田図書館に行きました。小学生以上の子どもに貸出カードを作ってもらった後、2冊の絵本を読んでもらいました。

1つ目は、アフリカに住む女の子が、7種類の果物がのったカゴを頭にのせて友だちのところまで行くうちに、サルやダチョウなどに果物を食べられてしまうのですが、最後に到着したときのカゴの中には、友だちの1番好きなみかんがいっぱいのっていたという不思議なお話「パングのびっくりプレゼント」。もう1冊は、かとりせんこう

の煙で、蚊や、新聞の字、洗濯物、お月様の涙までがポトポト落ちる「かとりせんこう」というお話です。落ち着きなかった子どもたちも、図書館の方のやさしい読み聞かせに、夢中になっていました。

その後、図書館の本の中から、正解を探すクイズをお母さん達も一緒にやりました。最後に、用意して頂いた、おもちゃの入ったガチャガチャをすると、子どもたちはすっかりご満悦の様子でした。しかし、もらったおもちゃは、大部分が解散までに子どもたちによって解体されてしまっていたが・・・。

私は、まだまだ力不足で、あまり役には立っていませんが、少しでも子どもたちのためになるようにこれからも頑張りたいと思っています。 (宇野 雅美)



## デイサービスセンター ハナの会

### ◆夏祭り

今年の夏は特別暑い日々が続いています。夏になるとハナの会恒例の夏祭り！

ここ3年程はコロナの景況で外部からゲストの方からは呼べず、ふといつも夏祭りや、敬老会に来てくださる歌手のお姉さんの事を思い出しました。いつも元気いっぱい力強い歌を披露してく、風船アートをしてくれたお姉さん元気にしているのかな？とコロナの影響で、色々な制限があり人とも疎遠になったりする事をとても寂しく思いました。

夏祭りをできる範囲で楽しんでもらおうと、スタッフで話し合い夏祭りと言えば恒例のスイカ割り今年も金魚すくい。おもちゃの金魚とスーパーボールすくいです。みんなで始める前に理事長が見本を実践してくれました。その見本が上手な事に私たちスタッフは顔を合わせて笑ってしまいました。いざ、よーいドンと始めたら、片手にポイを持ち椅子から必死で立ち上がり、夢中な顔をして真剣に金魚を追いかける姿、親子で来られている利用者のお母さんの方が、娘さんのポイを奪い必死にすくっている姿がとてもおかしく面白く爆笑してしまいました。金魚すくいは大成功に終わり、次は恒例のスイカ割り。一人ずつタオルで目隠しをし、ゆっくりとスイカに向かい一振り、スタッフが面白おかしくスイカ割りを披露してくれ、笑い声が絶えないスイカ割りとなりました。利用者のたくさんの笑顔が見られた夏祭りは大成功でした！

これからも色々な工夫をして体を動かし楽しめるデイサービスを目指して頑張っていきます！

(鮑 少君)

## ふたば国際プラザ

## ◆生活ガイダンス「市税について」

7月27日(木)にふたば国際プラザで市税に関する生活ガイダンスを行い、普段 KFC の日本語教室に参加されている5名の方々と支援者5名、計10名が参加しました。専門講師として、神戸市行税制局の方々に来て頂きました。

前回の生活ガイダンスを行った時に、説明が難しすぎたという反省点がありました。今回は事前に講師の方にやさしい日本語でパワーポイントの資料を作成して頂き、何度か内容を確認しながら準備を行い、伝わりやすいように工夫を行いました。税金の制度自体に馴染みが薄い参加者も想定されたことから、興味を持ってガイダンスを受けて頂けるよう、税金が市のいろいろなサービスに使われていることなどを説明に入れて、具体的に税金についてイメージできるようにしました。また、税金は種類によって事情がそれぞれ異なることから、各税の市の担当者合わせて5名の方に来て頂いたことで、細かい質問に答えることができました。質問としては確定申告の仕方や所得税、住民税、固定資産税、給与明細の見方、源泉徴収についてなどがありました。分からないことがあったら質問できる窓口も教えて頂き、今後活かせる内容となりました。

秋の時期には防災についてのガイダンスを計画します。時期に合わせたガイダンスでふたば国際プラザの役割を果たしていきたいです。(大石 貴之)

## ◆「多文化おばけやしき」を行いました

第3回目の今年は8月21日(日)にふたば夏祭りと同時間開催で実施し、地域の親子連れ約180名が参加しました。

スタッフ以外の人員は神戸市多文化交流員1名と応募してくれた学生ボランティア3名、日本語ボランティア1名。その内2名はベトナム人留学生です。

又、会場内に貼るおばけのポスターを描いてくれたのはネパール人の日本語学習者と支援者の方々です。「自国のおばけ」について調べながら描いてくれました。

準備に当たって、怖さを演出する装飾は各自で主体的に想像力を働かせながら行ってほしいことと、「おばけの心得」をお願いしました。過度の関わりや直接体に触れることなどは、恐怖心をあおり、危険な行動に繋がります。適度な怖さとは？

結果、初対面同士でもアイデアを出し合いながら、表示の紙をわざと破いたり、通り抜ける道に揺れる材料を垂らしたりと試行錯誤で会場作りに没頭してくれ、準備時間ぎりぎりまで頑張ってくれました。その後、本番になるともっと楽しんでもらいたいという気持ちで、おばけの動きやタイミング、衣装の工夫等、演出にこだわっていき、その姿を見て、触発されさらに頑張ったという感想もいただきました。ボランティアも関わり合いの中で交流が深められたようです。

例年同様、入り口で泣き出して引き返したり、促され再度挑戦して体験できたお子さん等「おばけやしき」ならではの受付付近の賑わいがありました。お子さんたち皆が満足した笑顔で帰っていく様子はスタッフ全員へのなよりの労いになりました。

暗闇で演出したくてもコロナ禍にあって、密室の空間にはできません。そのため壁面は最上部の窓を開けた上で黒いシートをはり、迷路も壁を低くし途中で抜け道をつくるなど、換気対策に神経を使いながらの設営でした。しかし、明かりのもれる窓の光が薄暗さを感じさせ、隙間風が不用意な揺れを演出したりと、意外な効果を上げてくれました。お化けの人数や1回に入場できる人数も減らした開催で楽しんでもらえただろうかと心配し

ましたが、「来年はおばけで参加したい。」と言ってくれるお子さんもいて次回こそ、計画段階から大人や子ども

の発想を生かせるイベントにできないか今から考えているところです。  
(山本 則子)

Kobe Foreigners Friendship Center NEWS LETTER

## 今後の予定

### ■ふたば国際プラザ

#### ○第33回 ヒューマンシネマ上映会

9月30日(金) 18:00~20:00 「幸せなひとりぼっち」

#### ○生活ガイダンス 警報・注意報と災害への準備

9月24日(土) 18:00-18:30

9月25日(日) 11:30-12:15

9月29日(木) 13:00-14:00

#### ○共生社会に向けたボランティア養成講座

10月2日~11月20日(日) 13:30~15:30(全8回)

### ■KOBELANTAN縁日2022

10月21日(金)~10月22日(土)